

# 与論島の活性化のために

理学部 地球環境科学科 1 年

2217540017 赤間純奈

今回の集中講義を通して、初めて与論島を訪れ、私の与論島へのイメージは変わった。私は与論島に関して、以前から一度は行ってみたいと思っていた憧れの島だった。実際に与論島に着いて、一番に感じたことは想像以上に透き通った綺麗な青い海だということ。こんなすばらしい島が日本にも存在しているということにとっても感動した。また島民の方々から行政や観光、農業、漁業、文化の分野について学んだり、島内を散策したりして、とても貴重な経験をした。しかし、それとは裏腹に島の問題点も見えてきた。そこで与論島の問題点を挙げるとともに、活性化するにはどうすればよいかを自分なりに考えてみた。

一つ目は観光客の受け入れ態勢が不十分であることが問題として挙げられる。観光客数として、1978 年・1979 年に年間 15 万人を超えて以来、2012 年までに約 5 万人までに減少した。しかし、PR やメディアを通じて、その後増加し続けている。でも、現在の与論島は観光客の受け入れは年間 10 万人が限度だと説明された。その理由としてゴミ処理や飲料水の確保などさまざまな問題に直面しているが、一番には宿泊施設が足りないという事態が起きている。確かに、島内を散策してみて、廃止されたホテルや老朽化が進む宿泊施設が目立った。行政の方によると、今後ホテルなどのリニューアルを考えていると話された。リニューアルをすることで、また新たに観光客が増えると思われる。それと同時に、若い世代の方々が U ターンで島に戻れるような環境をつくれるように、雇用を増やすべきだ。また、老朽化が進む宿泊施設では、定期的にリフォームを行えばよいと考える。老朽化が進むにつれて費用も高くなるため、早めに実行するべきだと思う。そうすれば、費用も再建するよりは抑えることができる。そして、リフォームをするタイミングとして観光客の少ない冬に行えば、多い夏には間に合うと思われる。もし、宿泊施設が綺麗に生まれ変わったら、見栄えもよくなり、観光客の島に対する感じ方も変わってくると思う。観光客に少しでも安心感をもって観光を楽しんでもらうために、とても大事だと思う。

また、これから外国人観光客が増えると予想される。そんなときに対応できる人がいなければならない。現在、与論島には通訳できる人がいない状況である。だから、通訳できる人を派遣すべきだと思う。こういうところでも雇用を増やす機会があると思う。

二つ目は人口減少の問題である。与論町は鹿児島の中で考えると、人口減少率は県下 4 番目に低いというデータが出ている。しかし、全人口は約 5200 人と、多いわけではない。また、60 歳以上の人口は全体の約 43%を占めており、超高齢化となっている。今後、子どもたちや若い世代の人口を増やすには、住みやすいように工夫することが必要である。

現在与論町では島外出産支援対策として、出産予定地での事前待機に要する経費や里帰り出産・医療機関待機の経費を助成している。しかし、その他にも支援を行ってみてはどうだろうと考えた。例えば、中学生までの医療費を全額負担したり、保育園に通う子どもの保育料を軽減したりすることで、少しでも保護者の方々を手助けできるようなサポートをしてみてもどうだろうと思う。また、与論島には総合病院はあるものの、歯科医院はなく、他の眼科や耳鼻科などは月に1~2度しか診療ができない。そういう部分も含めて医療に関しては不便であり、沖縄まで診療に行く人たちもいらっしゃるのでは、場合によっては交通費も助成すると、島民はとて助かると思う。そして、U・Iターン者を対象に家賃の一部を補助する支援制度を行えば、この魅力的な与論島に住みたいと思う方々がたくさんいらっしゃると思うので、それが実現すれば人口減少は阻止できると考えた。

三つ目は雑誌やネットに載っている情報量が少ないという問題がある。私も滞在期間中に行きたい場所があったのでネットで調べたものの、その場所への行き方や写真でさえ一切出てこないという状況が起きた。たぶん、県内に住む人々も与論島は鹿児島最南端に位置していて、海がとても綺麗な島ということしか知らないと思う。だから、私はもっと多くの人々に与論島のすばらしさを伝えたい。これを解決するには SNS によるアピールが必要だと考える。言葉では簡単に伝えることができるが、どれほど海が透き通っているのかわからない。写真を共有できる場があれば、伝わりやすい。そこでもっと多くの人々に見てもらえる機会があれば、この島に行きたいと思う方々が増えると思う。与論島は現在、「人生に一度は行ってみたい日本の離島ランキング」で2位という調査結果が出ている。私はそういう情報を今後新しくなる観光協会ホームページに積極的に加えて発信してほしいと思う。

私のイメージでは、あまり店もなく、海や田畑に囲まれた自然豊かな島。だが、実際は居酒屋やレストラン、スーパーも多く、他にも体験施設やマリレジャー、病院、整骨院など不自由なく生活が送れるような環境が整っていた。私はこの島の良いところをもっともっと伸ばすべきだと考える。島の約半分以上が農耕地であること、漁獲量が多いこと、海岸が綺麗なこと、民俗村で珍しい体験ができること、日本全国ではもちろん鹿児島本土でも見られない植物や生物が存在すること、島ならではの独特な方言があることなど数えきれないほどの良いところをこの短い期間で見つけることができた。

六次産業とは農業や漁業で得たものを食品加工して流通販売に展開することであるが、この自然豊かな環境で生み出し、作り上げたものが流通販売できたら、島内の雇用増加にもつながり、さらに観光業に活かせると思われる。そして、観光で得た収益を前文で述べたような費用に充てることができ、与論島の活性化に向けた良い循環が生まれるのではないかと。